

Vol.19

1994年2月1日

学校法人コア学園
 飯田コンピュータ専門学校
 〒395 長野県飯田市松尾明7591
 ☎0265-22-5111・FAX.0265-22-5100

BATON TOUCH! — 第4回遊楽祭 —

十二月二十五、二十六日に第四回遊楽祭が行なわれ、一日目はバスケット、バレー、バトミントンという内容で熱のこもった試合が見られました。二日目は、午前中にサッカー、午後には運動会をしました。普段からスポーツをしている人はまず少ないと思いますが、二日間を通してかなり疲れた人も多かったのではないのでしょうか。



南向きの大きな窓

心

学校長 林 研 二

多少の違いはあるにせよ、いつの時代にも同じことが云えるかもしれないが、昨今の世相ほど、物質万能、金銭第一、実利主義が眼に余る姿はないように思われてならない。物や金のように、形として見えるものには価値を見出し得ない人間のつくる社会は、温かみのない殺伐としたものになっていくことを恐れるのである。眼には見えないけれど、人それぞれがもっている内に秘めたもの、即ち、愛情、信頼感、尊敬の念、思いやり、真心、感謝というようなものを、もっと大切にしようという温かな心、豊かな人間関係が通い合う社会づくりが必要ではないだろうか。そうしないと、大人社会を見て育つ次の世代を担うこともたちが、物や金のみを追求し、そのみに生き甲斐を見出すような世の中になっていくことを心配するのは取りこし苦労というものだろうか。

芸能界やプロスポーツの世界における金の話はさて置くとしても、庶民の模範となるべき国

学校は知識の売買の場ではなく、教師と学生が真剣勝負で人生を考え、学ぶ道場である。学校に集う者が相互に信頼しあい、感謝しあってお互いに成長し合える教育の場として本校がどっしりと根を据える時が来た。

遊樂祭

一組 下平 志保

十一月の終わりに、この学校の文化祭である遊樂祭が行なわれました。

今年の遊樂祭では一日目にスポーツ大会をして、二日目にはサッカーと運動会をしました。私は、一日目のスポーツ大会はバドミントンに出場しました。結果は一回戦でおいしくも負けてしまいました。二日目のサッカーでは自分のクラスを応援して次の運動会では、友達と二人三脚に出場して一位を争いました。専門学校という学校は専門のことが少ないのですが今回のように文化祭を利用して学校の皆と一緒にスポーツをすることは、健康のためにも大変良い企画だっ



と思います。私達のクラスも各種目で上位に入ることができて総合成績もまずまずで、賞金をもらうことができました。そんな感じで楽しい二日間でした。



一年 電子情報工学科

十一月二十五日、二十六日に遊樂祭が開催された。一年生ということもあり、その内容はよくわからなかったが、なんの事はないスポーツをして汗を流そうといった催しであった。

一日目はバスケットボール、バレーボール、バドミントンを各チームに分れ試合をした。三位までは賞金がもらえる事もあり、皆のやる気は十分であった。結果はバスケットボールが三位、バレーボール二位、バドミントンが一位と、すべての種目

において賞金をせしめてしまった。恐ろしい執念である。しかし執念ばかりではなく、むしろこういったスポーツが得意な人達が一年電子に多くいたためではないかと思う。

つづいて二日目、サッカーと運動会があった。サッカーは、試合開始時間に人数が集まらなくて負けてしまった。それから午後は運動会が行われ、一年電子はそこでも賞金を得る事ができた。最終的にはとてもよい成績でしたが、たとえそれが悪くても、遊樂祭はとても楽しかったのではないかと思います。

小平 昭義

文化祭。それは今までなら、一種のカニバル的要素の強いものばかり思っていたものだった。しかし、ここに来て、文化祭というのは、いわゆる一つのクラスマッチだったことに気がつき正直意外だった。

文化祭当日、それは絶好のスポーツ日和だった。今日の文化祭改めクラスマッチは今回を含めて計二回目、前回はバレーボールを選択した。今回はまた例によってバレーボールを選択した。試合の方は完敗だった。また我クラスの他の試合の方もどうもさえなかったようであった。試合終了後、前回のことも思い出されて、今回も辛酸をな

めた訳だが、こんどの四月にある新入生歓迎会になると思うがこんどこそは、一回戦突破を目指し、頑張りたいと思う。



高坂 望

十一月二十五・二十六日は遊樂祭だった。遊樂祭とはどんなことをするのかと思っていたけれど、新入生歓迎会と同じだった。欠席すると出不足金として三千円払わなきゃならないということだったので一応出席はしたけれど、ほとんど見ているだけだったから楽だった。

一日目は体育館内でバドミントン、バスケットボール、バレー

ボールをやった。みんな優勝すると賞金が出るということで、真剣にやっていた。賞金でなければ、適当にやるだろうけれど、やっぱり賞金があると真剣だ。

二日目は、サッカーと運動会をやったのだけれど、一日目の疲れかパチンコに行ったのかあまり出て来なかった。出不足金、賞金があると出席もするし、一生懸命やるだろうから、これは良いと思う。

中山 聡子

十一月二十五・二十六日に開かれた遊樂祭は、私たち一年生にとって、初めての文化祭だった。中学校や、高校の時の文化祭のように何かを発表するのかわかっていたがスポーツ大会みたいな事だったのでびっくりした。

二十五日は、バドミントン、バレー、バスケットだった。私は、バドミントンをやったが、一回戦で負けてしまった。やる事がなかったのでも、バレーやバスケットを見ていたが、二年生の人達のうまさにとっても感動していた。うまいだけではなく、試合に出ている人たちは真剣に、応援している人たちは一生懸命に応援していて、クラスが一つになっっている姿がとてもよかった。

二十六日は、運動会とサッカー



1だった。運動会は、委員のたちがいろいろ考えてくれて、とても楽しいものだった。二日間に行なわれた遊樂祭はクラスの人たちと協力しあう事ができ、全校の人たちとの交流もでき、とても楽しいものだったと思う。



大原 智幸

やはり、遊楽祭で忘れていけないのは、松村秀樹君だと思っ
賞金だけを目標に、二日間の
スポーツ大会、運動会の全種目
にて、がんばっていた。

初日と違い二日目は、前日の
無理が筋肉痛となって、午前中
のサッカーでは、人はいるけど
皆動くことが出来なくて、不戦
敗となってしまう。

午前中がひまということ、
パチンコに行く人、オートバッ
クスへ買い物に行く人と、皆が
それぞれ有意義な時間を過ごした。
午後からの運動会では、普通
では見ることのできない、橋本
和也君、中山伸太郎君の活躍に
より、優勝という見事な成績を
残すことが出来た。

二日間の成績でみると、男子
だけとあって、運動会、バドミ
ントン優勝、バレー二位、バス
ケ三位という結果でした。

最後に、授業が二日間もなかっ
た事から楽しい遊楽祭でした。

市村 幸子

私は、この学校に入学して初
めて文化祭があることを知って、
まずそのことに驚きました。

でもその文化祭は、高校の文
化祭とは全く違った遊楽祭とい
うもので、高校でいうクラスマッ
チだったので、ワクワクするよ



うな、めんどくさいような気持
ちで当日を迎えました。
私はバドミントンの試合に出
たのですが、対戦者が二年生だっ
たのですが、対戦者が二年生だっ
たので、内心気がひけてしまっ
たので、内心がひけてしまっ
て、はじめは少しやりずらかっ
たけれど、まわりになっていたクラス
の友達への応援のおかげで楽しい
試合になりました。

結果はよくなかったけれど、
試合開始の「おねがいます」
「ありがとうございます」と

いうあいさつを二年生もきちん
とやってくれたので気持ちのよ
い試合だったことを覚えていま
す。

この遊楽祭で、バドミントン
やバレーボールなどのスポーツ
の楽しさを久しぶりに感じるこ
とができたということはもちろ
んだけれど、今まであまり話し
たことのない人と話せたことな
ど、交流をもてたことをうれし
く思いました。

スキー教室



一月五日から二泊三日のスキー
教室。私は、一度もスキーをし
たことがなく、友達が行くし、
単純に滑ってみたいという気持
ちもあったので、参加しました。

志賀高原に着いて、さっそく
スキー。先生に教えてもらって
滑ってみたけど、運動オンチな
私は、怖さもまざっててんでダ
メ。私以外にも初心者がいっぱ
い。私も、みんな、さっさと上手
くなって。結局、私一人取り残さ
れ、その日は、先生に付きっき
りでもらいました。



新井 智子

はつきり言って私はスキーが
下手です。

今回までに数回経験したこと
はあったのですが、「人にぶつ
かってやっとならなくなった」など
はあつたのですが、「人にぶつ
かた迷惑な結果に終わっているた
めに本音はあまり気が進まない
ものの、友達につられて思わず
参加してしまいました。

寝ボケ眼をこすりながら早朝
に出発し、道中バスの中では元
気に騒いでいましたがホテルで
ウェアに着替える時間になると
少しばかり憂うつでした。

滑って起き上がるのだけ。ちょっ
と情けなかったです。
最後の日は、雪が降って吹雪
状態。滑るのやめようかな？と
思ったけど友達みんなが滑ると
いうので付いて行きました。こ
の日はわりと平らでどうにか上
手く滑れました。

結果、約二日滑ってみて思っ
たこと、「私にはスキーは向い
ていない」ということでした。
上手く滑れなかったけど、そ
れでも楽しかったです。

しかし、そんな気も一面真白
の山々や、遠くに見えるゲレン
ドを眺めるとどこかへふっ飛ん
でしまふのでした。特にゴンド
ラから見える景色は最高でした。
そしてその後思わず「うそ
だ……」と絶句してしまう程の
急斜面へ連れて行かれました。
先生や上手な人はスイスイと
滑って行きますが私はトロトロ
とゆっくり行っただけでした。

しかし、アイスバーンに乗っ
てスピードが出て一初心者のは
頭が真白。そのあとはバラ
スを崩して激しいコケ方でした。
こんな調子で元気良く(?)、
みんなの足を引張りながらつい
ていった私でしたが少しは上達
して帰ってこれたと思います。
これは良い先生、先輩、友達
に恵まれたからだと思感謝し
ています。(夜の宴会はとって
も楽しかったです!)



地域情報化セミナー

去る十一月十九日と二十日に飯田コンピュータ専門学校で地域情報化セミナーがありました。

まず初めに「株式会社ジャステック・システム開発部」による「地図情報処理システム（アークシス）」と「地図情報入力システム」の展示があった。「地図情報処理システム」は大まかな地区ごとの地図から希望するポイントを選ぶことにより、その土地の持ち主や地価を知ることができるといふシステムを展示していた。「地図情報入力システム」は、市販されている地図を入力する事ができるシステムを展示していた。

次に、「飯田ケーブルテレビ株式会社」による「ケーブルテレビのデモンストレーション」の展示をしていた。「ケーブルテレビのデモンストレーション」は、受信できる局の番組を放映していた。ケーブルテレビ特有の地域番組も放映していた。三つ目は、「信南交通株式会社」の情報システム部の「モニターシステム」や「新製品の展示」をやっていた。「モニターシステム」は防犯カメラの展示をやっていた。「新製品の展示」



はポケットベルやノートパソコンの新製品を展示していた。

特別講演

地方公共団体における地域情報化施策について

講師

自治大臣官房情報管理室

企画係長 川上正博氏

（地域情報化推進の意義）

今日、情報処理技術及び通信技術の目覚ましい発展により、全国どこでも必要な情報を即時に入手できる条件が急速に整備されつつある。しかし、情報の大都市集中、とりわけ首都圏集中が著しく、大都市圏からの遠隔地ではコスト面を含め、情報の収集及び伝達が極めて不利な条件下にある。

また、わが国の産業構造の情報化、ソフト化、サービス化の進展に伴い、商業及びサービス業など本来の第三次産業だけでなく、農林水産業、工業、建設業等の情報産業化、第三次産業化が進むにつれ、企業立地の大都市集中が再び加速されつつある。

この様な地域間の情報格差を是正し、国土の均衡ある発展を図るためには、地域のニーズに即した情報通信施設の整備や情報システムの導入を全国的に推進するとともに、成長力の高い

情報関連産業の地方展開を促進する必要がある。

一部の地方公共団体においては、これまでも産業の振興、社会福祉の充実、教育文化の振興等への新しい情報通信技術の活用が進められてきたが、今後は都道府県はもとより、市町村においても明確な方針のもとに主体的に地域の情報化に係る施策を積極的に推進することが求められる。

なお、地域ごとの情報発信力は基本的には各地域が有する社会経済的な力を反映しており、その平準化は地域政策全般にわたる課題として取り組む必要がある。

これらの意義、主旨を体してそれぞれの地方自治体で具体的な施策を展開して行くことが求められており、そのためには先ず、「地域情報化計画」づくりから進めていただくこととなる。

（地域情報化計画の策定）

地域情報化計画は、当該地方公共団体の地域情報化に関する総合計画として策定されるものであるが、その内容としては、(1)情報化のビジョン (2)情報通信システムの構築と活用 (3)情報通信基盤施設の整備 (4)地域産業の情報化促進と情報関連産業の振興 (5)情報化推進体制の整備 (6)情報化を担う人づくり

(7)地域の情報化を推進する上で基本的に留意すべき事項、等について計画されることが考えられる。

そして、こうした計画に基づき具体的な事業を推進していただく訳であるが、地域住民や産業、経済活動のニーズに合った現実的、合理的な施策が展開されることが望まれる。

そこで、「情報通信システム」については、①住民サービス情報通信システム……高度医療サービスの提供や住民健康管理システム。在宅福祉、高令者支援システム・環境情報システム。教育文化情報提供、施設予約システム。……など。②産業情報通信システム……商工業、農林水産業などあらゆる産業分野の技術情報や経営情報の提供システム、流通ネットワークシステムなど。③消防防災情報通信システム、等の構築、整備、運用が図られることが期待される。

更に、それらの基盤、いわゆる「情報通信基盤の整備」が必要とされるところで、⑦地上原幹線通信網 ⑧衛星通信 ⑨CATV ⑩データベース ⑪ビデオテクス ⑫パソコン通信 ⑬ハイビジョン等のニューメディア

⑭情報通信拠点施設 など、地域振興、多極分散型国土形成の上で整備が促進されなければならぬ。

(自治省の支援策)

全国各地域で具体的に情報化施策を進めてもらうための支援策として、自治省も各種事業を推進している。「リーディングプロジェクト」「ハイビジョンミュージアム構想」「地域情報ネットワーク整備構想(コミュニティネットワーク構想)」などはその主要事業で、これらの事業を積極的に活用されて、新しい時代にふさわしい地域づくりを進められたい。

●講師プロフィール

一九五八年生まれ
下伊那郡下條村出身
飯田高等学校を経て、明治大学政治経済学部経済学科を卒業。
国鉄中部地区採用、同長野工場経理資材課勤務の後、一九八六年自治省採用、給与課配属となる。
徳島県地方課、消防庁総務課出向、自治省福利課管理係長を経て、一九九一年より現職
兼務
一九九二年より指導係長を

地域情報化の『核』に

飯田コンピュータ専門学校の解説の主旨としてその経過は、大方の皆さんにご理解いただ

ているところでありましょう。

高度情報化時代を担うエンジニア、ビジネスマン、ビジネスレディを育成し、この地域の各種職場で活躍してもらう、という本来の役割を、開校以来七年、些かなりとも果たして来たものと自信を持っているところです。これらの実績を基に、今後一層、地域の将来を託すことのできる技術者、職業人の育成に力を注ぐと共に、今回の様なセミナーの開催や、住民の方々への学習サービスの提供、更には専門的なアドバイス、コンサルティング業務など、あらゆる機会と場を通じて、正に、この地域の「情報化の拠点・情報発信の基地」として期待に沿うべく機能して参りたいと考えているところです。

(飯田コンピュータ専門学校)



第一回 公開総合講座

マルチメディアの動向

去る十一月三十日に、松尾公民館において公開総合講座が開かれた。

講師は、多摩大学教授の井上一郎(那野比古)氏で、マルチメディアについて話された。

講話はまず、今現在市販されている電話機は、停電時に電話が使用できないから黒電話も使っておいの方がよい。という当たり前ののだが、ハツとする内容から始まった。さらに、携帯電話も最近ではとても多くなり、高校生から持っている人も少なくない。しかし、混線しやすく途中で切れたり、うまく伝わらないこともあるらしい。

現在では、大型コンピュータからポケットに入るものまで様々なコンピュータが存在している。今、第五世代のコンピュータの時代を迎えようとしているが、このトップを走っているのは我が日本である。アメリカは日本に追いつけないため、第四世代のコンピュータを安く造り日本に輸出して成功している。しかし、アメリカでは画面上にペンで入力できるパソコンを開発した。今では、アメリカと日本のコンピュータ会社が手を結び、共同でコンピュータ開発を行っ

ている。それにより将来、携帯電話などから通信された図形などのデータがコンピュータに入力され動き出すことや、ファックスもできるようになる。この開発で、アメリカの大手TV局がパソコン開発をしたり、IBMが電波関係に手を出したりして一時的に政府からストップがかかった。その後、開発は再開されTV局はパソコンを開発したが、IBMはうまくいかずパソコンに専念している。

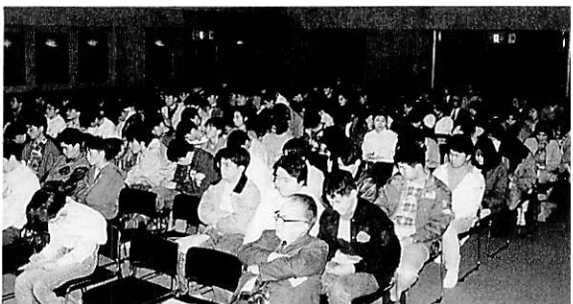
また、今のコンピュータはそれぞれ異なった性格をもち、互換性がないため、どのコンピュータでもつかえるソフトウェアを造ったり、コンピュータを作り替える必要がある。これも、いくつかの企業が提携しあい開発している。

コンピュータ開発を先駆けたのはアメリカであり、日本はアメリカが作ったコンピュータをそれ以上に性能を良くして売っている。コンピュータばかりでなく多くのものが日本独自では開発を行っていない。今までアメリカが開発したものに手を加えるという形が一般的だった。だから、真似ばかりしていないで、トップにたつてアメリカな

どに強気にできれば日本はもっと良くなるはずである。

約一時間半聞き、私は、なるほどと思ったことなどいろいろ役に立ったと思いました。しかも、パソコンの歴史や、これからどうなっていくのかということも何となく伝わってきました。

最後に、今回初めて一般の方々も視聴できるという公開総合講座でしたが、学校ではこのような機会をこれからも増やしていくつもりです。卒業をしてもその時には、是非参加して視聴してみたいと思います。



各種試験合格者

情報処理技術者試験第二種

二年電子

赤羽根光明・松野 由幸

二年情報 玉田 康範

情報処理能力認定試験A級

二年電子

赤羽根光明・伊藤 毅

二年情報 大木島 隆・松野 由幸

二年情報

今井 智博・熊谷 圭史

熊谷 潤・熊谷 好晃

小島 寿方・園原みどり

玉田 康範・福島みどり

一年電子 沢柳 晴司・吉沢 浩亮

一年情報 滝沢 篤志・赤須 潤一

小澤 智洋・椎名 延子

林 誠人

二年電子 岡本 貴行・篠原 高志

二年情報 今井 智博・内山 葉子

郷津 智義・所河 宏一

園原みどり・竹村 和高

富長 美穂・鳴海久美子

牧内美稚子・松澤 好晃

松島 淳

一年電子 橋本 和也・松村 秀樹

一年情報 下平 志保・代田 明子

二年電子 北原 幸樹・新井 智子

木下 景子・宮内 愛

宮下貴美代

二年電子 ビジネス文書検定試験三級

伊藤 毅・大木島 隆

松野 由幸

二年OA 山越 忠弘

一年電子 大原 智幸・高坂 望

中嶋 康治・原田 武彦

西尾 佳晃

一年情報 大蔵 博史・壬生 寛之

小平 昭義・椎名 延子

二年OA 飯島 純・伊藤 秀勝

井上 大輔・井原永美子

今井 智治・太田 淳一

小椋 大蔵・柏木 弘一

金澤 弘子・桜井 孝

鈴木 淳・中村 奈緒

牧内 秀忠・松下 保

松良 綾子・百瀬也寿志

山越 忠弘・吉川 明彦

吉川 彰一

一年電子 沢柳 晴司・馬場 隆

一年情報 市瀬 優子・市村 幸子

熊谷 慎介・佐々木 順

代田 明子・鈴木美介子

赤須 潤一・岩本 和浩

大倉 政喜・小澤 智洋

香山 貴章・木下 景子

後藤 照代・西條 緑

下島 祐二・中平 桂司

林 誠人・原 佳寿江

牧内 俊英・宮下貴美代

ワープロ検定試験三級

二年電子 伊藤 毅

二年情報 内山 葉子・北村 恵子

富永 美穂・福島みどり

牧内美稚子・若山祐香理

二年OA 金子 幸穂・上沼 美香

一年情報 西尾 佳晃

大蔵 博史・壬生 寛之

小平 昭義・椎名 延子

二年OA 飯島 純・伊藤 秀勝

井上 大輔・井原永美子

四級

二年OA

飯島 純・伊藤 秀勝

井上 大輔・井原永美子

今井 智治・太田 淳一

小椋 大蔵・柏木 弘一

金澤 弘子・桜井 孝

鈴木 淳・中村 奈緒

牧内 秀忠・松下 保

松良 綾子・百瀬也寿志

山越 忠弘・吉川 明彦

吉川 彰一

一年電子 沢柳 晴司・馬場 隆

一年情報 市瀬 優子・市村 幸子

熊谷 慎介・佐々木 順

代田 明子・鈴木美介子

赤須 潤一・岩本 和浩

大倉 政喜・小澤 智洋

香山 貴章・木下 景子

後藤 照代・西條 緑

下島 祐二・中平 桂司

林 誠人・原 佳寿江

牧内 俊英・宮下貴美代

ワープロ検定試験三級

二年電子 伊藤 毅

二年情報 内山 葉子・北村 恵子

富永 美穂・福島みどり

牧内美稚子・若山祐香理

二年OA 金子 幸穂・上沼 美香

一年情報 西尾 佳晃

大蔵 博史・壬生 寛之

小平 昭義・椎名 延子

二年OA 飯島 純・伊藤 秀勝

井上 大輔・井原永美子

今井 智治・太田 淳一

四級

二年情報

大平 正信

一年情報 下井 敦史・須山 政克

宮下 将洋・小澤 智洋

香山 貴章・後藤 照代

椎名 延子・宮下貴美代

ベン字検定試験二級

一年情報 市村 幸子

二年OA 飯島 純・伊藤 秀勝

井上 大輔・井原永美子

太田 淳一・小笠原栄司

小椋 大蔵・柏木 弘一

一年電子 沢柳 晴司・馬場 隆

一年情報 市瀬 優子・市村 幸子

大蔵 博史・秦 健太郎

新井 智子・小野 敦子

木下 景子・後藤 照代

小平 昭義・椎名 延子

宮下貴美代

マイクロコンピュータ応用

システム開発技術者試験初級

二年電子 赤羽根光明・内田 寛子

大嶋 徹・松野 由幸

日商簿記検定試験二級

一年情報 宮内 愛

三年 玉田 康範・園原みどり

二年情報 下平 志保・代田 明子

一年情報 西尾 佳晃

大蔵 博史・壬生 寛之

小平 昭義・椎名 延子

二年OA 飯島 純・伊藤 秀勝

井上 大輔・井原永美子

今井 智治・太田 淳一

小椋 大蔵・柏木 弘一

四級

二年情報

大平 正信

一年情報 下井 敦史・須山 政克

宮下 将洋・小澤 智洋

香山 貴章・後藤 照代

椎名 延子・宮下貴美代

ベン字検定試験二級

一年情報 市村 幸子

二年OA 飯島 純・伊藤 秀勝

井上 大輔・井原永美子

太田 淳一・小笠原栄司

小椋 大蔵・柏木 弘一

一年電子 沢柳 晴司・馬場 隆

一年情報 市瀬 優子・市村 幸子

大蔵 博史・秦 健太郎

新井 智子・小野 敦子

木下 景子・後藤 照代

小平 昭義・椎名 延子

宮下貴美代

マイクロコンピュータ応用

システム開発技術者試験初級

二年電子 赤羽根光明・内田 寛子

大嶋 徹・松野 由幸

日商簿記検定試験二級

一年情報 宮内 愛

三年 玉田 康範・園原みどり

二年情報 下平 志保・代田 明子

一年情報 西尾 佳晃

大蔵 博史・壬生 寛之

小平 昭義・椎名 延子

二年OA 飯島 純・伊藤 秀勝

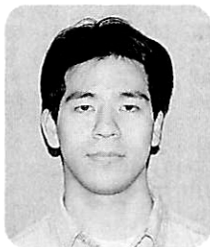
井上 大輔・井原永美子

今井 智治・太田 淳一

小椋 大蔵・柏木 弘一



玉田 康範



赤羽根光明



松野 由幸



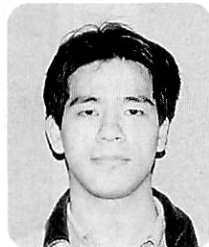
松野 由幸



大嶋 徹



内田 寛子



赤羽根光明

情報処理技術者試験第二種

マイクロコンピュータ応用
システム開発技術者試験初級

伝言板

- 2月1日 電子卒研発表会
- 2月18日 卒研発表会(一般向け)
- 2月22~25日 卒業試験
- 3月7~10日 一年後期定期試験
- 3月11日 卒業式
- 3月22日 成績発表
- 3月23日 春休み

編集後記

おかげさまで無事(かなり遅れてしまったが)UP-LE十九号を発刊することが出来ました。今回のUP-LEは委員長が参加せず、委員の皆さんだけで作成してもらったものです。それでも皆ががんばってくれてとても良いものが出来たと思っています。ここで参加した委員の皆さんにお礼を言いたいと思います。ありがとうございます。さて今回で今年度委員の活動が全て終わった訳です。来年度の委員の方には今年度以上のものを作ってもらいたいと思っています。最後に今年度の委員の皆さん本当に御苦労さまでした。